

## 公開シンポジウム「体育・スポーツの社会貢献への可能性を問う」

日本スポーツ体育健康科学学術連合、日本学術会議、日本体育学会共催

1. 日 時 平成22年9月9日(木) 15:15～17:15

2. 場 所 豊田市・中京大学豊田キャンパス 4号館411教室

### 3. 趣旨

1970年代以降、スポーツは社会の中で市民権を獲得し、社会的にも極めて重要な存在になったといわれて久しい。しかし、一方では医療費の増大やコミュニティーの解体、子どもの体力・健康問題やいじめなどを眼前にする時、社会や国民の体育やスポーツへの期待に十分に答えているとはいえない現実がある。

これらの問題意識をもとに、本シンポジウムでは、スポーツ政策、国際競技力、子どもの健康・体力問題、学校体育と地域問題の各側面から体育・スポーツの社会に果たす顕在的かつ潜在的な可能性を考えるとともに、広義の体育学やスポーツ科学のアカデミズムが果たし得る社会貢献の可能性を考える。

### 4. プログラム

司会 友添 秀則（早稲田大学、日本スポーツ体育健康科学学術連合運営委員）

主催者挨拶 福永 哲夫（鹿屋体育大学学長、日本学術会議会員、日本体育学会会長）

シンポジストおよびテーマ

(1) 鈴木 寛（文部科学副大臣）

体育とスポーツへの期待～スポーツ立国をめざして

(2) 勝田 隆（仙台大学、JOC強化本部常任委員会委員）

国際競技力向上の意義と社会貢献

(3) 福林 徹（早稲田大学、日本学術会議連携会員、日本体育協会子供の体力向上プログラム委員）

子どもの健康・体力問題とこれからの社会

(4) 松田 恵示（東京学芸大学、文部科学省生涯学習調査官）

地域・学校・世界をつなぐ体育・スポーツの可能性